

第1問【解答】

I(1) (ア)  $v_x$  (イ)  $v_y$  (ウ)  $a_x$  (エ)  $a_y$  (オ)  $a_y$  (カ)  $a_x$

(2) 面積速度が変化しない条件に運動方程式を用いて

$$\Delta A_v = 0 \Leftrightarrow \frac{1}{2}(xa_y - ya_x) = 0 \Leftrightarrow \frac{a_y}{a_x} = \frac{y}{x} \Leftrightarrow \frac{F_y}{F_x} = \frac{y}{x}$$

(3) (2)の力は円の中心に向かう力で、常に速度ベクトルに対して垂直にはたらく。

この力による仕事率は軌道上のどの点でも0であるから、**いずれも0で等しい**。

II(1) 小球の運動エネルギーを  $K$  とおくと

$$K - K_r = \frac{1}{2}m(v_x^2 + v_y^2) - \frac{1}{2}m\left(\frac{xv_x + yv_y}{r}\right)^2$$

$r^2 = x^2 + y^2$  に注意して変形すると

$$\begin{aligned} K - K_r &= \frac{m}{2r^2} \left\{ (x^2 + y^2)(v_x^2 + v_y^2) - (xv_x + yv_y)^2 \right\} \\ &= \frac{m}{2r^2} (xv_y - yv_x)^2 = \frac{2mA_v^2}{r^2} \end{aligned}$$

(2) II(1)の結果を用いて、力学的エネルギー  $E$  を変形すると

$$E = K - G\frac{Mm}{r} = K_r + \frac{2mA_0^2}{r^2} - G\frac{Mm}{r} = K_r + 2mA_0^2 \left( \frac{1}{r} - \frac{GM}{4A_0^2} \right)^2 - \frac{m(GM)^2}{8A_0^2}$$

ここで、 $K_r = \frac{1}{2}mv_r^2$  は、動径方向速度  $v_r = 0$  となる円運動のとき最小値0をとる。

したがって、**半径  $r = \frac{4A_0^2}{GM}$  の円運動** のとき、**最小値  $E_{\min} = -\frac{m(GM)^2}{8A_0^2}$**  となる

Ⅲ(1) 円運動の運動方程式より

$$m \frac{v^2}{r} = G \frac{Mm}{r^2} \quad \therefore v = \sqrt{\frac{GM}{r}}$$

量子条件の式に  $v$  を代入して整理すると

$$2\pi r = \frac{nh}{m} \sqrt{\frac{r}{GM}} \quad \therefore r = \boxed{\frac{n^2}{GMm^2} \left( \frac{h}{2\pi} \right)^2}$$

(2) Ⅲ(1)において  $r = R, n = 1$  として  $m$  について整理して、与えられた数値を代入すると

$$m = \frac{h}{2\pi} \frac{1}{\sqrt{GMR}} = \boxed{10^{-61}[\text{kg}]}$$

第2問【解答】

I(1) (ア)  $dIB$  (イ)  $\underline{\text{下}}$  (ウ)  $\underline{\text{X}}$  (エ)  $V = V_0$  (オ)  $\frac{V_0}{Bd}$

(2) 導体棒の運動量変化と力積の関係から

$$m\Delta s = dIB\Delta t \quad \Leftrightarrow \quad \Delta s = \frac{Bd}{m} I\Delta t$$

したがって、この間に導体棒に生じる誘導起電力の変化分は

$$\Delta s Bd = \frac{(Bd)^2}{m} I\Delta t$$

(3) 電流の定義より、 $\Delta t$ の間に導体棒を通過する電気量 $\Delta Q$ は  $\Delta Q = I\Delta t$  をみたく。

よって、I(2)で得られた関係式を書き替えると  $\Delta Q = \frac{m}{Bd} \Delta s$

到達速さまでの速さの変化量は  $\frac{V_0}{Bd}$  であるから、この間に通過した電気量 $Q$ は

$$Q = \frac{m}{Bd} \frac{V_0}{Bd} = \frac{mV_0}{(Bd)^2}$$

(4) (2)の関係式は起電力の変化分 $\Delta V$ と通過した電気量 $\Delta Q$ の間に  $C = \frac{m}{(Bd)^2}$  として

$$\Delta Q = \frac{m}{(Bd)^2} \Delta V = C\Delta V$$

の関係が成立することを表す。この変化していく電位差 $V$ に逆らって電荷を運ぶ仕事は

静電容量 $C$ のコンデンサーを電位差 $V_0$ まで充電するための仕事と等しい。よって

$$\frac{1}{2} CV_0^2 = \frac{mV_0^2}{2(Bd)^2} = \frac{1}{2} ms_0^2$$

(5) 回路と導体棒のエネルギー収支より

$$\text{導体棒の運動エネルギー変化に } \frac{1}{2} ms_0^2$$

$$\text{抵抗で発生したジュール熱に } \frac{1}{2} ms_0^2$$

II (カ)(キ)長さ  $d$  での到達速さを  $v_1$ , 長さ  $2d$  での到達速さを  $v_2$  とおく。

$$V_0 = v_1 B d = v_2 B (2d) \Leftrightarrow v_2 = \frac{1}{2} v_1$$

(ク) スイッチを切った状態では電流が流れないので, 速度は変化しない

(ケ) 端子間の距離が 2 倍になるので, 同じ速さに対して起電力は 2 倍になる

(カ)  $\boxed{\frac{1}{2}}$  (キ)  $\boxed{1}$  (ク)  $\boxed{1}$  (ケ)  $\boxed{2}$

III 導体棒 1, 2 の到達速さをそれぞれ  $v_1, v_2$  とおくと, 回路の方程式より

$$V_0 = v_1 B d + v_2 B (2d)$$

スイッチを閉じてから到達速さになるまでの加速中, 導体棒に流れる電流は共通で, 長さの違いにより, 導体棒 2 は導体棒 1 の 2 倍の力が働き, 2 倍の加速度が生じる。よって

$$v_2 = 2v_1$$

以上の 2 式より  $v_1 = \boxed{\frac{V_0}{5Bd}}$   $v_2 = \boxed{\frac{2V_0}{5Bd}}$

### 第3問【解答】

I 操作1は断熱膨張  $W_1 = \Delta U_1 = U_B - U_A = \boxed{\frac{3}{2} \left( \frac{1}{a^2} - 1 \right) RT_A}$

操作2は定圧変化  $W_2 = P(V_B - V_C) = \boxed{\left( \frac{1}{a^2} - \frac{4}{5} \right) RT_A}$

操作3は断熱圧縮  $W_3 = \Delta U_3 = U_D - U_C = \boxed{\frac{6}{5} (a^2 - 1) RT_A}$

II 操作4は定圧変化

(1)  $\Delta U_4 = U_E - U_D = \boxed{\frac{3}{2} R(T_E - T_D)}$

(2) 操作4でX内の気体が吸収した熱は、定圧モル比熱を用いて

$$Q_4 = \frac{5}{2} R(T_E - T_D)$$

熱力学第一法則より

$$W_4 = \Delta U_4 - Q_4 = \boxed{R(T_D - T_E)}$$

(3) XとYからなる系に対する熱力学第一法則より

$$\Delta U_Y + \Delta U_4 = W_4 \Leftrightarrow \frac{3}{2} R(T_E - T_A) + \frac{3}{2} R(T_E - T_D) = R(T_D - T_E)$$

これを解いて  $T_E = \boxed{\frac{3}{8} T_A + \frac{5}{8} T_D}$

Ⅲ(1) 操作4でYの気体が熱を吸収するときXの気体は熱を放出する。

よって、操作4は定圧変化で体積が減少する。

また操作4でYの気体が熱を吸収して温度が上昇するとき  $T_E > T_A$  より  $V_E > V_A$

したがって適当なグラフは  オ

(2) 操作4でYの温度が上昇する条件を考えて

$$T_E > T_A \Leftrightarrow \frac{3}{8}T_A + \frac{5}{8}T_D > T_A \Leftrightarrow T_D > T_A \Leftrightarrow \frac{4}{5}a^2 > 1 \Leftrightarrow a > \frac{\sqrt{5}}{2}$$

(3) 操作1から操作4の全体で、容器Xと容器Yに外部から与えられたエネルギーは

容器Xの気体がされた仕事  $W$  と 容器Zから受け取った熱  $Q_2$

これにより容器Xと容器Yの内部の気体の温度がともに  $T_A$  から  $T_E$  に変化した

このエネルギー収支の関係より

$$\frac{3}{2}R(T_E - T_A) + \frac{3}{2}R(T_E - T_A) = W + Q_2 \Leftrightarrow 2\Delta U_Y = W + Q_2$$

したがって  $\Delta U_Y = \frac{W + Q_2}{2}$

(4) 容器Yの温度が操作4によって変化しなくなる時  $T_F = T_D = \frac{4}{5}a^2 T_A$